

# 学校力向上に向けた「チーム潮小」の取組 ～積極的な学校改善の取組の推進～

稚内市立潮見が丘小学校 学級数 17 (校長 大島 朗)

## 1 はじめに

本校は、「明日も行きたい大好きな学校～安心できる居場所があり、力を伸ばすことができる学校」を経営方針、「あたりまえの継続が質の高いあたりまえへ」を重点に据え、学校・地域・家庭の連携を土台に教育活動を進めてきている。また、平成 30 年度から「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校の指定を受け、全校が一つのチームとなった包括的な学校改善と人材育成に取り組んでいる。



## 2 昨年度の学校力向上に関する総合実践事業の取組の成果と課題を踏まえた重点の設定

昨年度、本校では「組織的な取組」をキーワードに、『主体的・対話的で深い学び』に視点を置いた授業改善と「つながりを大事にした教育活動の展開」を取組の柱に据えて学校力向上に向けた取組を進めてきた。

その成果として、授業における指導過程のスタンダード化や、地域等との連携・協働による教育活動の推進が図られ、児童の学習に対する意欲の向上や、保護者等の教育活動に対する理解の深まりが見られた。

一方、課題として、「社会や子どもの変化に対応した学校改善」「人材育成」「質の高い授業への改善」などが挙げられた。

そのため、今年度は「学校経営への参画意識」「子どもの学びの保障」「指導力の向上」などを重点に取組を進めていくこととした。

## 2 実践の概要

### (1) 教職員、保護者、地域住民との目標等の共有

#### ○ 学校の教育目標の改訂

学習指導要領全面実施を契機に、昭和 51 年度の開校時から続いてきた学校の教育目標を改訂した。改訂に当たっては、教職員、保護者、地域関係者を対象にアンケートを実施し、関係者の思いや願いを整理するとともに、社会の変化、学習指導要領改訂の趣旨、求められる子ども像などを踏まえ決定した。

#### ○ 社会の変化に対応したグランドデザインの改訂

教育目標の改訂に伴い、児童はもとより保護者や地域住民が目標の実現に向けた取組について理解を深めることができるよう、グランドデザインの見直しを行った。

「学校づくり」「学級づくり」「授業づくり」の視点は継続するとともに、新型コロナウイルス

**潮見が丘小学校 2020学校づくり構想**

**めざす学校**  
明日も行きたい大好きな学校～安心できる居場所があり、力を伸ばすことができる学校

【管内重点】子どもの未来保障 【校訓】思いやり **学力・自己肯定感** 【学校教育目標】(R2.4.1改定) しっかりと学び考える・おもいきり挑戦する みんなも自分も大切に

**力伸ばす** ユニバーサルデザイン **あたりまえの継続が質の高いあたりまえへ** 居場所づくり  
自己実現を支援 「学び合い」「力合わせ」「つながり」

1. 子ども同士がつながって学び合える学校  
学び合いの考え方を基盤に子どもに任せる授業づくり  
2. 教職員のつながりで組織的な学校  
教育の質を高めるためにチーム力で働き方改善を進める  
3. 保護者・地域とつながり合う学校  
保護者と向き合い子どもを育てる地域コミュニティの活用

**学校づくり**  
子どもが主役～「必要とされる自分」「誇らしい自分」「今ここにいる自分」  
新型コロナ感染症対策～心のケア、学力保障、学校の新しい生活様式

**学校経営の質を高める**

- 「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す教育課程の編成・実施
- 3つの資質・能力の育成
- 「運動・健康」「徳・心身・読書」の3つの領域
- 安心して力を発揮できる学校づくり
- 目標を達成するために必要な教育活動の焦点化と働き方改善
- チームで支える支援体制
- 強みを伸ばし、生かす。育む
- エビデンスのある支援と教育

- 短い周期で検証改善
- カリキュラムマネジメント
- 授業で子どもを変える
- 一人一人に未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成する
- 心の育成、体の育成
- 教育職員研修

**授業づくり**

学び合い・振り返りを通して自ら考え主体的に学ぶ子どもたちに！

- 主体的・対話的で深い学びの徹底
- 子どもが主役の学び合い授業
- 学力向上につながる実践

○このように学ぶか

- 子ども同士の間わりで「学び合い」
- 「学び合い」の振り返り～タイムマネジメント
- 課題とまめあいの正解
- 指示・発問を短い言葉で端的に
- 「学び合い」の振り返り～タイムマネジメント
- 児童にとって「学び合い」の振り返り

**学校・家庭でぶれない、同じ方向を見て指導する「よくわかる潮小」**

PTA・地域と一緒に子どもの課題改善  
「ゲーム・スマイル・ネット」指導  
幼稚園・小中高大のつながり  
15年間を見通した教育課程  
稚内型キャリア教育

児童にとっては「明日も行きたい学校」  
保護者にとっては「明日も行かせたい学校」  
地域住民にとっては「頼りたい学校」  
職員にとっては「働きがいのある学校」  
※ 良質な「おせっかい」「出しっぱなし」

感染拡大防止に向けた学校の新しい生活様式や心のケア、学力保障など、社会の変化に対応した取組を加えたり、重点的な取組内容を見直したりし、児童、保護者、地域住民などが理解できるよう分かりやすく簡潔な言葉で整理した。

また、グランドデザインについては、全教職員で共通理解を図ることはもとより、家庭や地域などに広く周知し、共有化を図っている。

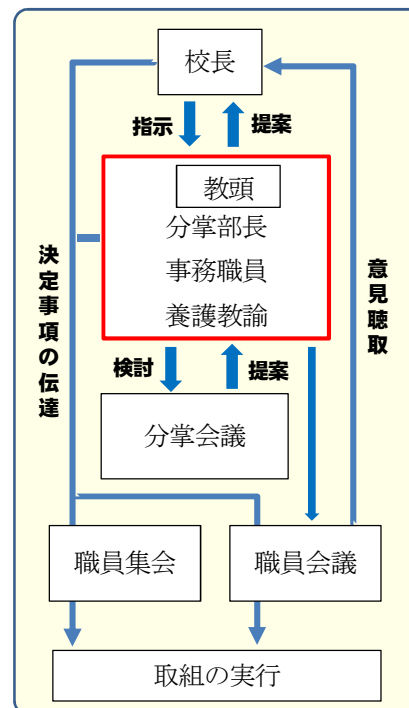
## (2) 教職員の学校経営に対する参画意識や協働意識を高める取組

### ○ 教頭を中心とした朝の打合せ

学校経営の中核となる教職員の学校経営に対する参画意識を一層高めるため、毎朝、校長、教頭、分掌部長、養護教諭、事務職員で打合せを行っている。打合せでは校長の方針に基づく業務の進捗状況や、支援を必要とする児童の対応状況など、様々な情報を共有し整理するとともに、改善が必要だと判断した場合は、課題解決の方向性や取組などを検討している。

また、打合せの中で検討した取組を校長が承認した場合は、放課後の職員集会等で全教職員に周知し、校長が分掌での検討を指示した場合は、各分掌で具体的な取組等について協議し、打合せ等で部長が取組の提案をしている。

このように、校長の方針に基づく取組を開始するまでの決定過程を明確にすることで、中核となる教職員に役割や責任を自覚させるとともに、学校課題に対して迅速な対応を行っている。



【校長の方針に基づく取組の実行までの過程】

### ○ ワークショップ型の協議を取り入れた会議

これまでの学年部長会議は、企画部からの取組の伝達及び共通理解が主であったが、今年度からは、企画部と学年部の役割や責任を明確化し、各教員の学校経営に対する参画意識や協働意識を高めるため、ワークショップ型の協議を取り入れ、校長の方針に基づく取組や学校の課題解決に向けた取組などを一緒に検討している。

このように、「分掌と学年」「分掌同士」「学年同士」「職員同士」で必然的に対話や共同作業が生まれる手立てを工夫し、実行するなど、教職員同士のつながりを大事にした学校経営を目指している。



【協議の様子】

## (3) 子どもの学びを保障する教育課程等の改善

### ○ 子どもの学びを保障する教育課程の見直し・改善

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取組の中でも子どもの学びを保障するため、全教職員で育成を目指す資質・能力や重点課題を確認した上で、各教科等における重点単元の設定、指導内容の精選、必要な時数などを見直した。特に特別活動（行事）においては、「育成を目指す資質・能力」を見直しの視点として、必要な行事、取組内容、時数を精選した。また、取組内容を検討する際は、できない理由を考えるのではなく、目標を達成するために「何ができるか」を考えるように指示し、改善を図った。

○ 学びの質を高める授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するため、各種調査等の結果を分析し重点課題を設定するとともに、課題解決に向けて「令和2年度 小学校教育課程編成の手引 授業づくりの基本」や「宗谷管内授業改善に向けた5つのポイント」をもとに、「授業実践のポイント」を焦点化した。

全教職員で共通理解を図るため、校内研修（理論研修）を実施し、各教員が日常の授業において「授業実践のポイント」を意識した実践を進めている。

また、公開授業及び研究協議等を通して、「授業実践のポイント」を踏まえた手立てについて検証・改善を図るとともに、研修部が授業や研究協議で明らかとなった有効な手立てを「研修だより」にまとめて発信し、全教職員で授業改善に生かしている。

重点課題 どの子ども「わかった！」が実感できる教室づくり。 ～ 潮小式学び合い授業を通して ～			
重点課題	(1) 子どもの学びが深まる「潮小式学び合い授業」を進め、一人も置き去りにしない授業作りを図る。	(2) 「自分の考えを明確にし、まとめて書くこと」「求め方の説明を記録できる」力を伸ばすために、授業の終末を充実させる。	
具体的な取組	① 潮小式学び合い授業（子どもの活動と学習形態への工夫を加えた授業）のついでに理解と意識の共有・課題設定とまとめの整合性（7のある課題設定・まとめから逆順授業計画・単元の系統理解と指導計画の作り方の理解（資料提供・研修プレゼン・研修部通信等）と具体化（指導案様式の改訂）	② 終末の時間確保のためのタイムマネジメント（脱、使しすぎる導入・振り返りに10分確保） ③ 記述式の「振り返り」（本時の目標の正しい記述の視点） ④ 学習指導要領と教科・学年・単元とのつながりについての学習（資料提供・研修部通信・ミニ研修）	(3) 家庭学習の取り組み方を再確認し、与えられた課題だけでなく、自分に必要な学習に自己選択・自己決定しながら取組むように指導する。
評価の観点	「国語・算数の授業はよく分かる」を図79％・算77％に。	「授業の最後はまとめや確認をする時間がある」を80％に。	① 「意見地区家高学習習慣定着」に向けての見直し・改訂 ② 家庭学習の取り組み方と評価の観点と方法の全校統一（漢字・計算・プラス1の取組） ③ 自分で考えて決める家庭学習の計画の推進 ④ 家庭学習キャンペーンの内容の工夫と保護者への啓発（通信作成） 「毎日家庭学習をする」を77％ 「1日あたりの学習時間」を83％

なぜ、「振り返り」なのか？

子どもたちの実態と学校課題。これまでの先生たちの取組から、今年度の重点を確認しました。

子ども 力を付けるために

今年度の取組の重点 (我が校の学力向上プランより)

R2年度の授業作りの重点

- ① 授業終末の時間確保のためのタイムマネジメント
  - 脱、使しすぎる導入：シンプルに投げかけから子どもの「？」を引き出す。
  - 合言葉は、「振り返りに10分確保！」
- ② 課題とまとめ（振り返り）の整合性
  - 「7」のある課題設定→知りたいことは何か？何が分ればいいのか？
  - まとめ（振り返り）から逆順にたてる授業の計画。
- ③ 記述式の「振り返り」の継続
  - 記述の視点
    - 「分かったことは何か。分らなかったことは何か。」を基本に、本時の「目標・詳細標準」に照らして、子どもの学びを見取ることができる文言を。

つまり、R2年度は、みんな「振り返り」をがんばろう！

【「今年度の研修のあゆみ」より一部抜粋】

(4) 組織を活用した教職員の指導力の向上

○ 共通・一貫・徹底した指導

全ての教職員が児童や保護者に対して共通した指導や対応を行うことができるよう、指導のアウトラインを整理した『よくわかる潮小「教職員編」』を作成し、全教職員で一貫・徹底した指導を行っている。特に若手教員は、本資料を指導の道標とし、実践を重ねている。

よくわかる潮小「教職員編」

保存版

よくわかる！ 潮小「教職員編」

外出・外出

職員室の日常

配付・心配り

授業で大騒ぎすること

机の上に置くもの

ノート指導をいかに

有向学習管理

デジタルデータの扱い

会計業務・金銭管理

児童の子どもの喜び

児童を促る言葉と態度

子どもについて関心あること

来た子に接する子

よりよい情報づくり

保護者へ対応

【よくわかる潮小「教職員編」】

授業で大騒ぎすること

机の上に置くもの

ノート指導をいかに

学習指導・校務

児童の人権と教育を守る立場で

デジタルデータの扱い

会計業務・金銭管理

中身の濃い「平凡」を積み重ねる

※ 授業終末の時間確保のためのタイムマネジメント  
整合性  
記述式の「振り返り」の継続

各学年共通の学習課題

※ 書籍は机の上には置けません。机の上に余計なものは置けません。  
※ 机の上に置くもの  
教科書は机の上と逆側、ノートは利き手側  
・消しゴム  
・定規(15cm) ・黒ペン、青ペン  
※ ノートの持ち方は必ず右向き  
※ 持ち手は必ず自分の指で握ります。  
※ 椅子を引いて、姿勢を立て、足を「開」けましょう。  
※ 鉛筆は3本の指で持ちます。

日々の積み重ねが学力向上に

※ きれいなノート作りが習慣になると、字跡、ことばも読みやすくなります。  
(1) 机の上に机を並べます。  
(2) 今日の「課題」(黄色)は黄で囲み、今日の「まとめ」(赤)は赤で囲むことを基本にします。  
(3) 指導の要領として、何冊かのノートなのか、ノートの下に何ページ目か(工夫)も書きます。  
※ 授業学習やテストの点検は、授業記録簿(学習履歴)に記入し、記録簿をAAA(AAA)で行います。

児童の人権と教育を守る立場で

※ 最終使用の情報機器には注意します。  
※ 指導要領は、学年末に、通知表・成績一覧表は、学習歴と、校長先生の教訓の承認を経て学年毎に校長室の指定の場所に保管します。  
※ 指導要領、健康診断などは、学校から持ち出さず、個人で保管します。  
※ 持ち出す際は、管理職に届け出ます。持ち出す個人情報データについては、番号化やパスワードの設定などの対策を講じます。

個人情報保護法を基本に

※ 行事等で撮影したビデオ、写真は、故意・過失・事故により、個人情報として流出しないよう注意するため、次のように扱います。  
a) 映像・写真のデジタルデータについては、教師が保管して保護者に譲渡(しない)します。  
b) 家庭から動画を再度鑑賞したいと申し出があった時は、貸し出し、写真データについては、貸し出ししない。(複製・引用・転載は禁止の注意事項)

定期的確認して無事故で

※ 学年会計は、学期末と学年末に管理職の承認を得て、学年末に、学年末には決算書を保護者に報告します。詳細は学年会にて。  
※ 金銭の管理は、出来るだけ現金として保管せず、通帳や預貯金、立付簿など現金は金庫に保管します。  
※ 机の中や現金や貴重品を置くことは厳禁とします。  
※ どのからの現金や貴重品をゆむをゆむ現金を換えるときは、直接担任に連絡するようにします。(担任が不在の際は、机に現金がないように指導)

### ○ 全教職員の指導力向上に向けた取組

中堅・ベテラン教員がこれまで培ってきた指導観や指導方法等を若手教員に伝える機会を設定し、相互の指導力の向上を図ることを目的として、次の取組を行っている。

- ・全教員が「実践のポイント」を踏まえた授業を公開するとともに、放課後等に授業について学び合う、授業交流を積極的に促進している。
- ・月2回程度、放課後の職員集会の時間を活用し、若手・中堅・ベテラン教員で構成したメンター研修や学年部会でのミニ研修を実施し、学習指導、生徒指導、保護者との連携等について学び合う研修を実施している。
- ・日常的に管理職や分掌部長等各学級の授業を参観し、授業者に対して「実践のポイント」を踏まえた授業改善について指導助言を行っている。



【授業交流の様子】

### 3 実践の成果（○）と課題（●）

- 会議等の工夫や効果的な研修実施など、人材育成を意識した積極的な学校改善を図ってきたことにより、中堅・ベテラン教員は学校経営に対する参画意識や協働意識、若手教員は指導力や指導力が高まってきた。
- 全教職員で育成を目指す資質・能力を共有するとともに、重点課題から「授業実践のポイント」を焦点化し、組織的な授業改善を推進してきたことにより、授業の質が向上し、児童の学習に対する意欲が高まってきた。
- 教育の質の向上を目的とする働き方改革を推進するため、各分掌等の業務や教育課程の内容等を見直したり、精選したりするなどし、教職員一人一人が担当する業務を遂行する時間を確保する必要がある。